

最新IT動向と企業情報システムへのインパクト

主催：野村総合研究所 2012年11月27日（東京）

野村総合研究所（NRI）は、年に2回、最新IT動向に関するITアナリストの調査研究の成果を公開する「ITロードマップセミナー」を開催している。今回も「最新IT動向と企業情報システムへのインパクト」をテーマに、421人にご参加いただいた。セミナーは4つのセッションで構成され、今後の企業情報システムに大きな影響を与えると予想される技術の動向とビジネスへのインパクトについて展望した。

最初のセッションでは、イノベーション開発部の城田真琴が「Internet of Things（モノのインターネット）時代の到来——全てがネットに繋がる時代に何が起こるのか」と題して、IoTの全体像を整理するとともに、リアルとバーチャルをつなぐツールとしてのIoTの可能性について展望した。城田は、「今後は、モノの状態に応じたダイナミックプライシングなど新たなサービスが生まれる可能性があるが、企業には利用者が対価を払う価値のあるサービスの開発が求められる」と指摘した。

続いて、同部の藤吉栄二が「NFCで実現する新ビジネスの可能性——オンラインとオフラインの融合を加速する新技術への期待」と題して、企業活動におけるNFC（Near Field Communication）活用の可能性について解説した。藤吉は、「NFCは決済やマーケティング、機器認証などの用途に利用できるが、マーケティング目的での利用の場合、商品の認知から購入、共有に至る各シーンでNFCを活用することで顧客経験価値向上が期待できる」と指摘した。

次に、同部の亀津敦が「位置情報サービスがもたらす顧客サービスの進化——新たな競争の舞台とな

る位置情報関連技術の最新動向」と題して、位置情報を用いて実現されるネットとリアルが融合したサービスの可能性について展望した。亀津は、「位置情報を活用することで、企業は、送客やインスタ・ナビゲーションなど、生活者と実店舗・サービスとの距離に応じたさまざまなサービス提供が可能となる。今後は位置情報に各種データを組み合わせることで、よりの確に生活者の状況を把握し、その場に応じたサービスの提供が可能になる」と指摘した。

最後のセッションでは、同部の中村博之が「オムニチャネル・コマース——すべてのチャネルを考慮した顧客接点の再構築」と題して、オムニチャネル（企業が持つすべてのチャネルを活用して顧客にアプローチする方法）の活用事例を紹介しながら、オムニチャネルによる顧客接点の再構築の仕方について解説した。中村は、「顧客接点の再構築は、業務特性や自社のポジショニングなど正確な環境分析に基づいたロードマップ策定から始めるべき」と提言した。

本セミナーの講演内容は「USTREAM（ユーストリーム）」で同時配信され、多くの方々に視聴いただいた。なお、現在USTREAMのWebサイトでアーカイブが視聴可能となっている。

イノベーション開発部ITアナリストの調査研究の成果は、東洋経済新報社から『ITロードマップ2013年版——情報通信技術は5年後こう変わる』と題して2012年末に刊行されている。

.....
本セミナーについてのお問い合わせは下記へ

ITロードマップセミナー事務局

電子メール：it-rm-qa@nri.co.jp